

連載

はままつ文化財の散歩道

第2話 老木の健康診断

浜

松市には樹齢数百年にもなる巨木があり、天然記念物として文化財保護の対象となつています。東区天龍川町にある「法橋の松」(静岡県指定天然記念物)は樹齢およそ七〇〇年といわれ、長寿の象徴とされる松の中でもまれに見る老木です。一度は余命宣告を受けながらも、今もなお懸命な樹勢回復の試みが続けられています。

一九九三年の樹木医診断時には、大枝が折れ、シロアリが幹を食い荒らしている状態でした。なんとか救おうと栄養となるアミノ酸を注入し回復に努めました。それでももって十年の余命だろうと言われていました。

それからおよそ三十年、法橋の松は当時の予想をはるかに上回り生きています。しかし、二〇二〇年の診断では、枝の重みや風により幹が折れてしまうかもしれないと指摘さ

れました。太く見える幹は中が八割も腐朽し空洞になつていたのです。まさに骨粗鬆症の状態です。対応策として、新たに幹を支える支柱を設置し、幹の腐朽部分には保護マットを設置しました。

法橋の松から東におよそ四〇〇メートル進むと妙恩寺というお寺があります。「法橋の松」の名は、この寺の開基、金原法橋が愛でていたと言われているにちなみます。一九五二年の文化財指定当時は、枝張りが最大一八メートル、樹高はおよそ十四メートルでした。年月を経てその姿は変わりましたが、螺旋を描く幹や南へと延びる旺盛な枝ぶりから、現在も見る人に松の力強い生命力を感じさせ、今なおかつての姿を想像させます。

法橋の松が少しでも長く生きて、地域を見守り続けてくれることを願ってやみません。

(文:浜松市文化財課)



かつての法橋の松(昭和初期の絵葉書)
【浜松市立中央図書館所蔵】

法橋の松の情報はホームページにも掲載しています



市HP▶ 法橋の松 検索

懸命に命をつなげる老松(2021年6月撮影)